賛成　新風流山

平成29年度予算は、マーケティング戦略が功を奏し、人口増加に伴う市税収入の大幅な増加が見込まれ、歳入確保に大きく貢献するものと評価します。住民誘致に合わせて、切れ目のない子育て支援策が必要です。保育士確保のため特例保育士処遇改善事業をはじめ、数多くの事業を展開し、受け入れ基盤の強化を図っている点を高く評価します。一方で、これらは、民生費の増大、経常的経費の増加につながります。決算時の経常収支比率に大きく影響を与えると指摘させていただきます。

高齢者対策は、深刻な介護職員の不足、財源不足を抱える2025年問題を前に、市は全国に先駆け、地域が地域の高齢者を支える体制づくりを積極的に推進していますが、予算抑制のために安易に地域に丸投げすることのないよう要望します。

コンパクトシティ形成に向けて、公共交通網を見直し、ぐりーんバス路線の他に、新しい枠組みの公共交通政策を転換されたく願います。

賛成　公明党

平成29年度流山市一般会計歳入歳出総額は、前年度に比較して、1億3500万円増の率にして0・3パーセント増の529億1千万円となりました。増額の要因は、民生費で増額となったことによるものです。

歳出面では、私立保育所整備事業などの待機児童解消に向けた事業や小学校の校舎増設事業、また、高齢者、障がい者に関する事業や未来への投資を実現する経済対策などを盛り込んだことなどは、評価いたします。

このたび、東京オリンピック・パラリンピックの開催地が東京となった最大の要因は、「おもてなし精神」があったからだと考えます。

事前キャンプのホストタウンとして選ばれ、オランダチームを迎えることとなった可能性のある本市において、この「おもてなし精神」で市長自らが先頭に立ち、市職員と一体となって、幅広い世代の多くの市民を巻き込み、施策の取り組みをされるよう要望して賛成とします。

会派に所属しない議員

菅野浩考議員　平成29年度一般会計歳入歳出予算総額は529億1千万円で前年度予算額と比較し1億3500万円で0・3％増となっています。歳入では自主財源である市税において市税全体で対前年度10億4千万円の増加となりマーケティング活動やTX沿線整備が影響し評価いたします。

歳出では子育て世代の人口増加に伴う小学校の増改築、子育て施設や保育園整備事業が増え、必要な計上となっています。今後さらに財政調整積立基金の残高に注意を払い、健全な財政維持をするよう要望し賛成します。

阿部治正議員　以下の理由で反対。学校不足に対し新設小の開校は4年後で中学建設は提起されず。子どもの貧困の実態調査はせず、保育所や学童クラブの整備でお茶を濁すが、直接の貧困対策が必要。高齢者福祉では介護保険制度改悪に追随し、ボランティアなどに委ねることで安上がり介護を進め、介護従事者の低処遇を温存。求められているのはイメージ戦略ではなく、子育てや高齢者福祉に本気で力を入れ、格差や貧困対策、そして放射能汚染対策に本気で取り組むまち。以上の施策が決定的に欠けている。

市政に関する一般質問

平成29年第1回定例会の一般質問には、18人の議員が登壇し、市政に関するさまざまな議論が展開されました。

各議員が行った質問のうち、1問についての質問・答弁を通告順に掲載しています。

なお、「問」部分については、各議員の草稿によるものです。

生物多様性保全の取り組みについて

新風流山　森田　洋一

問　**私たちは豊富な生態系や生物多様性に生かされている。生物多様性の重要性を次の世代を担う子どもたちに伝えていくべきと考えるがどうか。**

答　**環境部長**　成果として、市野谷の森地区と利根運河地区における生物の基礎的な生息情報を得られたこと、特定外来生物であるアライグマの捕獲など、各拠点の生態系に影響を与える要因への対応を行えたこと、生物多様性ながれやま戦略市民会議で、各重点拠点の現状について、市と各団体間で情報共有を行えたことです。一方で、モニタリング調査員や活動団体構成員の高齢化と後継者不足、活動に興味を持つ人材育成と周知、啓発が課題となっています。

子どもたちへの環境教育は非常に重要と考えています。植樹活動を通じて未来の流山市の自然環境について考える機会の一つとしています。今後も継続的に普及啓発を行いたいと考えています。

切り絵行灯の普及について

流政会　大塚　洋一

問　**江戸川の水運で栄えた流山本町は、切り絵行灯が街の魅力をますます向上させていると考えます。今後、この切り絵行灯を普及させ、流山本町のブランドとする予定ですか。また、普及に対する市と市民の役割分担の見解はどうですか。**

答　**経済振興部長**　切り絵行灯は、設置されている皆さまの地域を愛する気持ち、地域を盛り上げるための機運の表れであると感じています。市としても、今後も切り絵行灯がさらに増えていくことを望んでおり、流山本町の観光資源として来訪者の増加につながるよう普及と活用に努めたいと思います。

市と市民の役割分担は、取り組みが市民自ら地域の方とともに自主的に進めているところに大きな価値があり、市としても取り組みを高く評価し、応援をしたいと思っています。来訪者の増加に向けたプロモーションを行っていく役割を考えており、地域住民と市が一体となって流山本町のツーリズムを推進します。

マンションと地域の連携にむけて

流政会　近藤　美保

問　**マンションにも見守り・支え合い・防災・防犯等の自治活動を活発化するためには仕組み作りの工夫が重要です。市はマンションに自治会設立を求めていく方針ですが課題は何ですか。品川区の事例を参考に改善案を検討してはいかがですか。**

答　**市民生活部長**　平成27年度からマンション管理組合に対し、行政情報の提供だけでなく、コミュニティ活動の理解のため、自治会懇談会への出席をお願いしています。今後は、自治会組織もなく周辺の自治会に加入していないマンション管理組合に向けた地域コミュニティへの参加、理解を進めるため、ハンドブックを作成し、地域コミュニティへの参加のきっかけづくりを進めます。

品川区では一定規模以上のマンション事業者に対し、町会および自治会との連絡、調整を行うための地域連絡調整員を選任することを義務づけています。今後はマンション管理組合と地域が円滑に連携、協力する仕組みづくりについて、市の現状を踏まえ検討します。

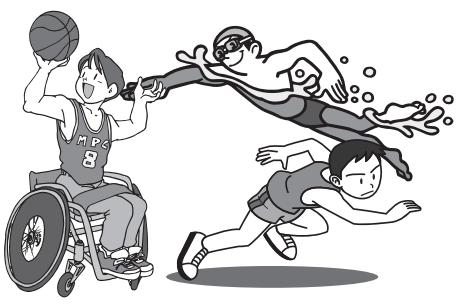
オリンピック・パラリンピックについて

流政会　野田　宏規

問　**公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が、東京2020参画プログラムと題して、協力イベントを募っています。流山発祥のヘルスバレーボールをはじめとした、各スポーツ大会で取り入れてはどうですか。**

答　**生涯学習部長**　東京2020参画プログラムの認証を受けるためには、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が定めた審査基準があり、承認されなければいけません。さまざまなスポーツ団体の中でもヘルスバレーボールは、各年代の方たちが体力に見合った形で楽しめ、スポーツ実施率の向上という点もあり、審査基準に強く合致していくと思われます。また、流山市発祥のスポーツという点も、PR効果が大きいので、まずは日本ヘルスバレーボール連盟に働きかけをしたいと思います。

他の団体は、現時点で日本ヘルスバレーボール連盟を超えるような内容の部分について、考えられないということでご理解いただきたいと思います。



※「新風流山」は４月１日から会派名を「市民クラブ」に変更しました。